

ビジネスリーダーのためのイメージアップ講座

## 第3回

## 襟元のハリ感が“パリッ”とした印象を作る



スーツの脇役のように思われがちなシャツですが、その襟元の印象や素材感などは意外に目立ち、しっかりと見られているものです。クールビズでシャツが主役となるシーンも多くなる季節。シャツ選びの基本を今一度チェックして、ネクタイを締めているときから、ノータイのときまで、そのポイントをみていきましょう。

形、素材、色で  
似合う1枚を選ぶ

「パリッとしたスーツ姿」といえば、仕事のできる上司、そんなイメージを抱きます。この“パリッ”という印象を大きく左右するのがシャツの襟部分。Vゾーンの内側でも一番顔に近いここが、ピンとしてハリ感のあること、それが好印象につながります。

この襟部分は、両襟の開き具合や襟の長さによってさまざまなタイプがあります。定番的な人気となっているのは「セミワイド」と呼ばれる、両襟が90度前後に開いた形。この襟の形選びにも顔の輪郭に合わせた基本があり、ふくよかな丸顔、四角い顔の方は「セミワイド」より両襟の開きが狭いもの、面長や細みの顔の方は「セミワイド」よりも両襟の開きが大きいものが顔とのバランスをとりやすいといわれます。

また、シャツの生地選びでポイントとなるのは光沢があるものを選ぶこと。この光沢感は糸が細いほど出やすくなり、それが高級感へとつながります。糸の太さを表す「番手」表示がある場合は、100番を目安にするといいでしょう。色はベーシックな白、ブルーに加え、意外にも薄いピンクは、顔映りを良くし、若々しい印象を与えるのでおすすめです。

主役はいつでも  
ジャストサイズ

ここ数年は、クールビズの影響でシャツが主役となるシーンも増えました。そのとき重要なのは、ジャストサイズの1枚である

こと。既製品でもオーダー品でも、毎回、首周り袖丈は測ってもらう必要があります。とくに首周りは体型の変化が出やすいので、いつでも実寸+1.5～2cmを目安にしてください。

ノータイの場合は、襟に高さがあり、襟がしっかりと立つタイプであれば、第1ボタンを外してもラフすぎず、知的な印象を失いません。本来はノータイ用のものも襟に高さがあれば、とっさのときにはネクタイ対応もできるので、これも大きな魅力です。

クールビズで大活躍するボタンダウンシャツですが、本来、カジュアル用であるため、ネクタイ着用には向いていません。正式な場ではNGであることを理解して、着くずしているのと、知らずに着ているのでは大きな違いがあります。ぜひ、覚えておいてください。



## TRY!TRY!TRY!

1

## 首周りをはじめサイズ確認

上半身が映る鏡の前でシャツがジャストサイズかを確認。首周りの余裕は、指1本程度ありますか？

2

## 光沢感のあるなしを比較

何種類かのシャツの素材を見比べて、同じ色でも光沢感のあるなしで見え方が違うことを実感しましょう。

3

## 新しいタイプのシャツに挑戦

持っていない色、ノータイ用の襟高タイプなど、今まで着たことのないシャツを1枚、新調してみませんか？

## ● 山川 みどり 国際イメージコンサルタント

国際イメージコンサルタント協会(AICI) ニューヨーク支部会員。ファッション専門誌、女性誌の編集者として、ファッション、心理学ページなどを担当。その後、大手製薬会社、化粧品会社の教育ツールの制作などに数多く携わる。06年、アメリカで国際イメージコンサルタントの国際ライセンスを取得し、プライムイメージを設立。  
プライムイメージ <http://www.primeimage.jp/>

